

文人・歌人の足跡をたどる～歌碑・句碑をめぐる～

歩行距離 約7.2km
 所要時間 約2時間24分
 施設の見学時間は含まません

古今を問わず、様々な文化人たちに愛された川越。このコースでは彼らが残した足跡ともいえる歌碑・句碑を探訪します。

シーズン：通年
 移動手段：徒歩



3 中院 (不染亭)

不染亭は川越に緑深い作家、島崎藤村が養母の為に建造した茶室で、「不染」とは茶道の師匠であった養母の号に由来します。建物前には藤村の書による「不染之碑」もあります。

2 愛宕神社 (芭蕉句碑)

川越・仙波地域では江戸時代より俳句が盛んで、この碑も愛好者によって建立されたものです。また、愛宕神社には写真のもの以外にも句碑が点在しています。

1 浅間神社 (占肩の鹿見塚)

万葉集巻14東歌にある「武蔵野に占へ肩灼きまきまでも告らぬ君が名うらに出にけり」という、鹿の骨を焼いて恋の占いをした際の歌に由来します。古くから残る鹿見塚という地名は古墳を指しますが、現在は残っていません。

4 喜多院 (歌碑高浜虚子)

正面から見て左手にあります

3 中院 (不染亭)

正面から見て左手にあります

1 浅間神社 (占肩の鹿見塚)

本堂への階段脇に記念碑があります

6 大手町 (正岡子規の句碑)

正岡子規が、明治24年(1891)に川越を旅行した際に宿で詠んだ「粘うつ隣に寒き旅寝哉」という歌が刻まれています。その宿があった場所に設置されており、現在は民家となっています。

4 喜多院 (歌碑高浜虚子)

049-222-0859

1 浅間神社 (占肩の鹿見塚)

鳥居前に句碑が点在しています

8 養寿院 (安部路人の歌碑)

「城下町に昔の鐘の響り夜空に春めきて聞ゆ」と刻まれており、川越のシンボル時の鐘を詠っています。

4 喜多院 (歌碑高浜虚子)

昭和6年(1931)、高浜虚子一門の「ホトギス」同人が喜多院を訪れ、数多くの歌を残しています。「鶴(ひよどり)一羽鳴けば五六羽こたえたる」(虚子)の句をはじめ、昭和初期の武蔵野野歌った「武蔵野探勝」は有名です。

1 浅間神社 (占肩の鹿見塚)

本堂への階段脇に記念碑があります

9 熊野神社 (元空網の歌碑)

碑に刻まれている歌は「山さくら咲けば白雲散れば雪 花見てくらす春そすくなき」という狂歌です。空網は天明時代の狂歌の第一人者で、一時期この近辺に住居を構えていたことを記念して建てられました。

7 時の鐘 (川越小唄の碑)

西条八十の作詞による川越小唄は、昭和初期にその軽妙さでヒットしたお座敷歌です。この碑は歌詞に登場する多賀町という町名が区画整理で変更する際、その名を残そうと建立されました。時の鐘の下をくぐって、すぐ右にあります。

5 川越氷川神社 (山上憶良の歌碑)

万葉歌人、山上憶良の「令反感情歌」が刻まれた碑で、明治時代に当時の文学愛好家によって建立されました。

川越駅	
約1km	徒歩約20分
1 浅間神社 (占肩の鹿見塚)	約0.3km 徒歩約6分
2 愛宕神社 (芭蕉句碑)	約1.5km 徒歩約30分
3 中院 (不染亭)	約0.5km 徒歩約10分
4 喜多院 (歌碑高浜虚子)	約1.8km 徒歩約36分
5 川越氷川神社 (山上憶良の歌碑)	約0.7km 徒歩約14分
6 大手町 (正岡子規の句碑)	約0.2km 徒歩約4分
7 時の鐘 (川越小唄の碑)	約0.3km 徒歩約6分
8 養寿院 (安部路人の歌碑)	約0.9km 徒歩約18分
9 熊野神社 (元空網の歌碑)	

市街地エリアで通年楽しめるコース

入館料、開館時間、定休日等は、各施設にお問い合わせ下さい。